

1ヶ月多かつたのと市價の昂騰がヒドかつたからである。政府は急増せる國內需要に應せんがため其の輸入を容易ならしめると同時に價格抑制の目的を以て4月15日鐵輸入關稅適當り6圓免除の緊急勅令を發布した。これ共印度鐵は同國內の需要引續き増加せる事並に英本國に於ける鐵需給狀態が本邦同様逼迫しており従て同市場に印度鐵を獲得する事急であつた。此のために本邦への輸出價格も漸次昂騰すると共に數量亦意の如く増加し得なかつた。それに我が國の鐵飢饉は益々深刻となり斯くて共販賣値は1月-3月の57圓から4月-6月77圓と大巾に引上げられ更に7月-9月には81圓に引上げられた。而して同社の當期賣上數量は13萬噸で前期より2萬噸増加したので收支何れも以上の如く激増した譯である。然し収入は増へても支出増加の割合が其れ以上に多かつたと云ふのと船腹不足による運賃暴騰のためで斯くて業績は叙上の如く低下を餘儀なくしたものである。(帝國興信 11月20日)

日滿鐵鋼一元統制 日滿鐵鋼一元化問題は曩に鐵鐵共販の持株問題を中心とする日鐵と滿洲國側の意見の相違により一旦解消したが最近鐵鐵建值供給數量決定に際しての協調的態度等より再び表面化するに至り更に今回日産を母體とする滿洲重工業開發會社の設立に絡み鮎川日産と小日山昭和製鋼社長は同問題につき協議した結果一元の統制促進につき意見一致を見たものゝ如く之が具體策につき日滿兩國政府と折衝を重ねてゐる。一元統制の具體策としては一部における日滿兩社の合同論の如きは實現困難であるから之と實質的に同じ効果を狙つて日鐵と昭和製鋼所が相互に株重役の交換を行はんとするものである。

尤も滿洲重工業が滿洲國內における今後の製鐵事業統制を如何なる態様で行ふかによつて一元化問題は重大な影響を受ける。即ち滿洲國東邊道通化附近に新設される製鐵所を昭和製鋼所に包含せしむるか乃至は昭和製鋼所とは別個の獨立製鐵所とするか假に兩者を一體とするも本溪湖煤鐵公司を之に合併すべきかどうかの問題もありこの如き日鐵と滿洲側の持株交換は滿洲側會社の評價問題とも關聯してかなり複雑な問題となるやうである。

然し現下の情勢は一日も忽諾にすべきにあらずとし此具體案を中心に近く日鐵と昭和製鋼所の間で交渉を開始する筈であり平生日鐵會長も亦滿洲側の統制案に賛意を表してゐるので愈々來春を期して懸案の日滿鐵鋼一元の統制は實現することにならう(中外商業 12月17日)

商工省工業品規格統一調査會の總會 (新規格 62件政府註

文品に適用)工業品規格統一調査會では15日午後2時半丸の内工業俱樂部に第16回總會を開き會長吉野商相 村瀬副會長 委員 幹事關係職員 97名出席 吉野會長の開會の挨拶に次いで幹事より昨年12月の第15回總會以後の事務報告並に俵 岡野 中原 松村各部長の議事經過報告ありたる後次記品種に關する規格案 62件を逐次審議した結果全部これを可決同午後5時散會した。決定規格は追て商工省告示として公示し政府が製造 購入又は注文する工事並に製造品は同規格に依らしむると共に各府縣にも通牒を發して規格の普及を圖る方針である。尙今回の第16回總會までに決定せる規格は合計 488件の多きに上てゐる。

1. 不銹鋼規格案(以下規格案の語略)
2. 鐵道車輛用ばね平鋼の寸法重量並に公差
3. ばね用黒皮丸鋼の寸法 重量並に公差
4. 水道用合金鉛管
5. 亞鉛板
6. アルミニウム棒の寸法
7. 黃銅形材
8. 繼目無鋼管の寸法(改正)
9. フェロマンガ
10. フェロシリコン
11. シリコマンガ
12. スピーゲル
13. シリコスピーゲル
14. フェロクロム
15. フェロタンゲステン
16. 下水道用鐵筋コンクリート管
17. 筆記用紙
18. 紙試驗方法
19. 塗料用ロジン
20. 塗料用エステルゴム
21. ロジン及びエステルゴム試驗方法
22. 塗料用ダンマルゴム及び試驗方法
23. 塗料用コバル及び試驗方法
24. 塗料用石油アスファルト
25. 塗料用ギルソナイト
26. 塗料用ニトロセルローズ及び試驗方法
27. ドープ用アセチルセルローズ及び試驗方法
28. 纖維素塗料用溶劑及び可塑劑
29. 纖維素塗料用溶劑及び可塑劑試驗方法
30. 標準試驗節
31. 電氣機器巻線用軟鋼線
32. 低壓碍子改正案
33. ソケット形狀寸法
34. セード グローブ及びホルダー各適合部寸法
35. 受信真空管口金改正案
36. 電球用ねぢ型口金及び承口(改正)
37. 小型電球用口金及び承口(改正)
38. 電球用 S 22 口金及び承口(改正)
39. 鋸齒ねぢ
40. 30 C 梯子型ねぢ(改正)
41. 29 C 梯子形ねぢ(改正)
42. V-ベルト
43. 手回ガスタップ
44. 傳聲管用口金(船用)
45. 船内鋼製扉
46. 鋼索帶木製滑車(船用)
47. 木甲板(船用)
48. 銅釘(船用)
49. 銅座金(船用)
50. 送風機試驗方法
51. 自動車用緩衝梁
52. 自動車用燃料液上ポンプ取付座
53. 自動車用機關起動電動機取付寸法
54. 鋼索
55. インポリユート齒車齒形
56. 球軸受及びころ軸受
57. 丁溝ナット
58. 仕上丁溝
59. 鑄放し丁溝
60. センタ
61. ナット附センタ
62. 工作機械運動方向(中外商業 12月16日)

正 誤

鐵と鋼 第二十三年第十一號 論說「[アルミニウム青銅の共析變態の性質に就て(第5報)]」大日方一司 林 三樹男]第3圖(1097頁)は轉倒したるを以て茲に訂正す。即ち 13 は上 1 は下となる。